

# 「幼児の体験の捉え 2020」(例示)

(※「幼児の体験の捉え 2020」は下記の研究をもとに例示として作成したものである)

第Ⅰ期 (3歳児入園～4歳児前半)	第Ⅱ期 (3歳児後半～5歳児前半)	第Ⅲ期 (5歳児後半)
<p>【①】同じ場で見たり触れたり行為を真似したりする</p> <p>【②】共有し、つながり合う気分を味わう</p> <p>【③】イメージの世界に浸り、感情を共有する</p> <p>【④】友達存在を、好意をもって受け入れようとする</p> <p>【⑤】友達のしていることを感じながら、個々の遊びを楽しむ</p> <p>【⑥】安心して自分の気持ちや思いを表し、言葉や動きで伝えようとする</p> <p>【⑦】集団生活の中で、言葉を交わす楽しさや必要な言葉があることを知る</p> <p>【⑧】ものを持ったり、見立てたりして遊ぶ楽しさやおもしろさを感じる</p> <p>【⑨】全身で素材の感触を味わって遊ぶ</p> <p>【⑩】身近な自然に自分なりの興味や関心をもってかかわる</p> <p>【⑪】気に入った遊びを心ゆくまで繰り返し楽しむ</p> <p>【⑫】思い切り身体を動かす心地よさを感じる</p>	<p>【⑬】場やものを共有し、友達とかがわって遊ぶ楽しさを知る</p> <p>【⑭】イメージや考えを伝え合い、表現する楽しさを味わう</p> <p>【⑮】葛藤を乗り越え、友達と一緒に遊びをつくりだす</p> <p>【⑯】友達と刺激し合いながら、自分の世界を広げる</p> <p>【⑰】体験を深め、学級の友達と遊びの楽しさを共有する</p> <p>【⑱】自分がしたことや思ったことを話そうとし、相手の話を聞こうとする</p> <p>【⑲】遊びを進めながら、友達と思いや考えを出し合う</p> <p>【⑳】ものの色や形、性質などに関心をもち、遊びを楽しむために必要なものを作ったり、探したり、試したりする</p> <p>【㉑】身近な自然やものにかかわり興味や関心を広げ、様々なことに気付いたり、驚いたり、不思議さを感じたりする</p> <p>【㉒】興味や関心をもったことに没頭して遊びこむ</p> <p>【㉓】好きな遊びに繰り返し取り組み、自分なりの表現を楽しむ</p>	<p>【㉔】目的を共有し、友達と相談しながら遊びを進める</p> <p>【㉕】新しいアイデアや遊びのルールを生み出す</p> <p>【㉖】グループや学級の中で、役割を意識して取り組む</p> <p>【㉗】友達のよさや持ち味を感じながら、目的を実現し達成感を味わう</p> <p>【㉘】様々な人とかかわりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる</p> <p>【㉙】思ったことや考えたことを相手に分かるように話すとともに、気を付けて人の話を聞く</p> <p>【㉚】考えを伝え合ったり、相談したりしながら遊びや生活を進める</p> <p>【㉛】数量や文字に対して興味や関心をもち、進んで遊びに使用しようとする</p> <p>【㉜】身近な事象とかかわる中で、変化、仕組み、法則性などについて気付くようになる</p> <p>【㉝】地域や社会生活の中で興味や関心をもったことを遊びに取り入れ、より本物らしく再現できるように追究していく</p> <p>【㉞】友達と共通の目的や見通しをもち、思いを実現するために調べたり工夫したりする</p> <p>【㉟】一人ではできないこと、簡単には達成できないことにも挑戦し、充実感を味わったり、ルールのある遊びを楽しむ</p> <p>【㊱】友達と探究する中で、多様な感情体験をしながら、やり遂げた喜びを感じる</p>

上記「幼児の体験の捉え 2020」は、平成 26 年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」体験の多様性と関連性、協同を育む指導の在り方に関する調査研究『多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める実践研究』から引用したものである。なお、評価シートの作成や話し合い等の際に使いやすいように、便宜上、【①】から【㊱】の番号を付けた。